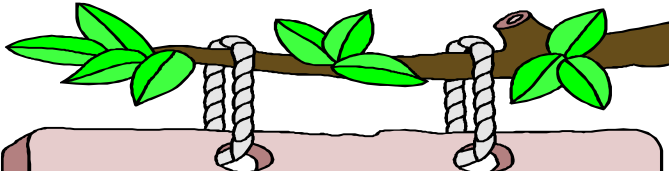


みどり山防災ニュース

発行：三輪緑山自治会自主防災隊編集委員会

三輪緑山3-1-13 ☎044-987-7495



参加されましたか？

“じゅんばんまちかど防災訓練”

—ご近所の方達と触れ合う絶好の機会です—

じゅんばんまちかど防災訓練は、当自治会の新しい企画イベントとして2017年10月にスタートしました。主に毎月第四土曜日の午前、概ね2～3番地単位にじゅんばんに開催してきており、既に開催回数は20回を数えています。

住民の皆様にはお忙しい中、多くの方々に参加して頂き、主催者(自治会、自主防災隊)としても大変心強い限りです。

この記事をお読みの方で既にご参加体験をされた方々も多いと思いますが、この訓練の流れについて改めて簡単に紹介させていただきます。



第一部は10時からの三輪中央公園での実際にスタンドパイプを使った消火訓練です。

ここでは、町田消防署鶴川出張所より署員の方々に消防車で出張頂き、参加住民ひとりひとりスタンドパイプを実際に握っての放水体験を行います。

スタンドパイプは各丁目の公園にある防災倉庫に収納されています。当日は三輪中央公園の防災倉庫と至近の道路の消火栓を使います。

もちろん実際にはプロの隊員や消防団の方にお任せすることになりますが、初期段階では自主防災隊員がスタンドパイプを持ち出し、ボールで消火栓を開けたりする作業もあり、一連のこの体験は大変貴重なものと思われま



第二部は11時から自治会集会所でのプロジェクターを使った防災懇話会と、被災に備えての非常持出しや家具倒壊対策等のお話です。我が街の安全度合や自主防災隊が出来ること、物資や救急の公的サポート(公助)の実態、自宅で備えの為に必要な避難グッズや対策器具についての実物を使ったお話を聞くことが出来ます。

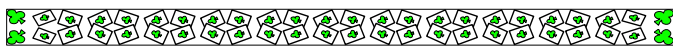
しかしながらこのじゅんばんまちかど防災訓練のもうひとつの大きな目的は、被災に限らずこの機会にご近所の方々と少しでも知り合いになろう、です。

ご近所付き合いが希薄になって来ていると言われている昨今ですが、被災した際の共助の大切さは最近の大きな災害でも必ず話題になります。

高齢化で自助が出来ない世帯も増えていくでしょう。また本年度の自治会通常総会でも会長から話のありました、当地区でも空き家が増えている現状等を考えますと、地震に限らず火災や急病人等の早い段階での発見で類焼や人命救助の早期発見に資することにもなります。



この訓練にはご夫婦で参加して下さる方も増えてきております。また話を伝え聞いてご自分の番地の回に出られなかったので飛び入りで参加される方もおられます。まだ約1年半続きますので、これからの番地回の方はもちろん、過去参加されていない方も是非顔を出してみてください。原則毎月第四土曜日午前10時前に自治会集会所に受付を設置しています。消防署や自治会行事の関係で変更することもありますので、詳しい日程はみどり山ニュースの最終ページ(行事予定)をご参照ください。



『いつ起こるかかわからない自然災害の備えにはまず、先人の尊い犠牲が刻まれた郷土の歴史を知り、教訓を引き出し、これを伝承することだ』

羽鳥徳太郎 (1922~2015 / 歴史地震学者)

シリーズ 町田の被災史-1

重政文三郎 (2017) : 町田の『びやく』地名を探す, 町田地方史研究家

過去の文献等を調査すると今ではあまり使われていない「びやく」と呼ばれる災害事例や小字名などの記載が南関東で多く見つかりました。

1. 東京都多摩丘陵周辺の「びやく」
1. 1町田市野津田町・薬師池の東・川島谷

東京都町田市付近は、多摩丘陵からなる多くの谷地が発達し、何回も「びやく」が発生したことが、地名や災害事例などに残されています。

町田市野津田町の薬師池公園は町田市立の都市公園です。薬師池(面積7700 m²)は「福王寺池」とも呼ばれ、天正5年(1577)に北条氏照の印判状が野津田の武藤半六郎(河井家祖先)にくんだり、水田用水池として開発され、天正18年(1590)に完成しました。現在でも地域の重要な水源となっています。

元禄16年11月23日(1703)の元禄関東地震(M8.1~8.2)によって、関東地方南部は激甚な被害を受けました。図は、「宝永三年(1706)野津田村絵図」(河井将次氏所蔵)で、薬師池のすぐ近くに赤色で崩壊地が描かれ、「ひやく打」と記載されています。



『野津田村年代記』元禄16年11月22日(1703)の記事の現代訳

[元禄関東地震によって江戸城の見附の石垣が崩れたが、野津田村の被害は49軒の家が潰れ、半壊は数知れず、川嶋谷では長さ200間にわたる山崩れ(びやく打ち)があり、甚兵衛の田圃は3反部程が土砂で埋まり、まるで田が山に成ったようだ。こんな大きな地震は500年来、700年来起こったことを知る者はいない。『野津田年代記』で辿ってみると、11月22日の本震のあと、月末まで連日続き、28日には「西より東へ飛び物これあり、地震」とあり、奇怪現象も起こっています。12月に入っても治まらず、さらに新年になっても、「正月末迄も昼夜少しつゝ地震止まらず」、「3月中も地震、鳴動もこれあり」]



図2 薬師池とびやく付近の拡大図

宝永三年(1706)野津田村絵図(河井将次氏所蔵) 町田市立自由民権資料館で撮影

図2は「宝永三年野津田村絵図」で、図3は野津田村付近の明治13年（1880）の野津田村付近の地形図で、薬師池（青）や鎌倉街道（赤）などを強調してあります。

薬師池の東側の山向こうに「びやく打」があったことが、絵図及び付箋の記事に記されています。場所は『野津田村年代記』の記事のとおり、川嶋谷に当たるとされる所の山崩れの斜面を赤く塗り分けて、「びやく打ち」と書き込んで示しています。

さらにそこに付箋が張られていて、「びやく打ち」のことが記録されています。付箋の記事は、「去る末年すなわち元禄十六年（1703）の地震時に起こった「びやく打」のために、3反部の水田が埋まったことが記され、3年経ったこの時点で、未だに作付けをすることができないことが強調されています。

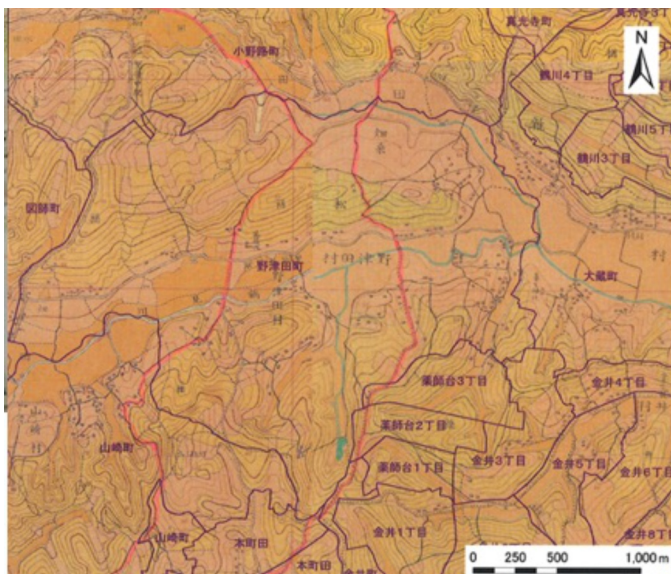


図3 野津田村付近の明治13～19年（1880～1886）の地形図
第一軍管地方二万分一迅速測図原図に薬師池などを追記
（迅速測図出典：農研機構農業環境変動研究センター）

この村絵図が描かれた翌年の宝永四年（1704）に富士山噴火があり、降灰による被害が農業に追い打ちをかけた。薬師池は宝永3年（1707）の富士山宝永噴火による降灰で埋まったため、灌漑用水として利用できなくなり、3年間にわたって「浚い普請」が行われました。

私の3.11その1

14:55頃Tw氏より何時ものように入電。

「大きな地震大丈夫かい？今どこ？」

「電車ストップしてやっとこき子玉川駅プラットホーム、電車運転休止、246号も人だけが少し動くかな？です、迎え車をお願いします」

「早々に車はOK、然し何処へ？何時に？貴方は徒、僕は車、で確約できる場所、時間は読めないよネ？兎に角、多摩川

を何としても渡り切ってから、電源を大切にしながら確実な情報を得てから連絡を取り合いましょう、此方からも情報を流します」

…その後連絡は取れませんが…

4時間後 [聖マリアンナ病院病院行バスがあるとの情報を取得した、道路事情も良好、また連絡する…奥方がかなりの衰弱＝え一つ・] でした。

その後21:00 [15分後には新百合ヶ丘駅に着けられる、道路事情は走行車なし、停電中、…] の連絡をもらい、21:45頃Tw氏宅へ送り届けられました。

長い長～い7時間で胃が痛い、人間無力の経験でした。町内では高齢者、独居人が町内の情報、地震自体の情報を待ち焦がれておられました。（緑寿会の見守り隊の連絡網にて）（一丁目70代 男性）

私の3.11その2

震災時は、桜木町の勤務先のビルの19Fにいました。最初はいつもの地震かなといった揺れでしたが、徐々に遊園地の乗り物のように大きくなり、数分間は揺れていたと思います。

帰宅時、革靴で長距離を歩くのは難しく、以来、徒歩での帰宅に備えて運動靴を常備するようにしています。帰宅途中、コンビニに寄ったのですが、水など目ぼしいものは全て売り切れており、備蓄することの重要性を痛感しました。

「震災が起きてから対応するのでは遅い」という当たり前事実を実感し、今は水・食料・日用品の備蓄を心がけています。（二丁目40代 男性）

私の3.11その3

次郎がああ横揺れに襲われたのは高層ビル16階だった。次郎は立っていることができず窓際によろめいて思わず両手と両膝を床についた。床は見た目にも明らかなほど傾いていた。

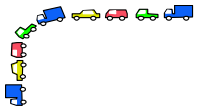
道路を隔てた隣のビルが目の前に迫って来るように感じて、ビル倒壊の恐怖感に襲われた。何台ものキャスター付きの脇机が机から飛び出て通路を塞いだ。揺れが収まりあたりを見回すと、誰もが呆然と立ち尽くすのみで不思議な静寂感につつまれていた。

（中略：その後何をしていたのか次郎には記憶が定かでない）

地下鉄が運転再開したのは日付が変わった頃。自宅にたどり着いた時は2時を過ぎていた。

次郎の長い1日は終わったが、日本列島が日常を取り戻すにはなお数か月が必要だった。

（三丁目60代 男性）



私の3.11その4



2011年3月11日のことはよく覚えている。この時私はTBSのゴルフ練習場にいた。突然の凄い揺れ、驚いて茫然としていたら揺れは収まった。周りの人はほとんど帰ったが、「私が帰宅しようとしまいと、家は倒れるときは倒れる」などと嘯き、再び練習しようとしたら、また激しい揺れ。練習場の職員が大声で「建物の外に出て下さい」と叫んだ。

家に戻りあたりを見廻したが傷は無さそうなのでTVをつけた。津波の映像が流れていた。それからTVに釘付け。長いこと、津波のあつという間にふくれあがり、押し流してゆく膨大な量の水を見続けていた。

震災の備えを何もしていなかった私は、このあと、いろいろな備えを始めた。しばらくは震災備品の物持ちであったが、いつの間にか一つ消え、二つ消えて、今はあらかた無くなってしまった。どこにいつてしまったのだろう。
(二丁目 70代 男性)

●気象庁が発表する震度

ある震度が観測されたとき、その周辺で発生する現象や被害等の目安は次のとおりです。 家具や電気製品の固定を確実に実施しましょう。



震度と揺れ等の状況(概要)



0 **【震度0】**
人は揺れを感じない。

1 **【震度1】**
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

2 **【震度2】**
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

3 **【震度3】**
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

4 **【震度4】**

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

6弱 **【震度6弱】**

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

耐震性が高い 耐震性が低い

5弱 **【震度5弱】**

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

6強 **【震度6強】**

- はわないと動くことができない、飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い 耐震性が低い

5強 **【震度5強】**

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

7 **【震度7】**

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

耐震性が高い 耐震性が低い